

ユニオンスクール第4期・第5期フォローアップ研修開催

連合渡島地協は7月4日（土）、午後1時半より函館パークホテルにおいてユニオンスクール第4期・第5期の修了生を対象にフォローアップ研修を開催し、12名が参加しました。

はじめに校長である連合渡島地協 荒木会長より「ユニオンスクール修了生は、それぞれ各組合で重要な役割を果たしている。今日のフォローアップ研修でさらにスキルアップを図っていただきたい」との挨拶があり、早速研修に入りました。

第1講義は、全造船函館ドック退職労働者組合の佐藤健二会長より「造船労働者の闘い」と題して、函館造船労働者の戦前からの歴史、ドック分会の反合理化闘争の取り組み、組織対策としてのレク活動等が当時の写真を使いながら紹介されました。戦前より賃金改善のストライキがあったこと、終戦時には組合が買い出し休暇を要求し獲得したこと、仕事があるときだけ働く臨時工の条件改善に組織を上げて取り組んだこと、反合理化闘争ではマスコミの利用や国会議員への要請などあらゆる戦術をとって闘ったことなど、具体的に分かりやすい話を受講生は聞き入りました。



また、佐藤氏からは、今の組合の活動について「もっと一人ひとりの組合員に目を向けた活動が必要ではないか」との指摘もありました。

休憩を挟んで第2講義は、3班に分かれいつもの講師、連合北海道組織対策局皆川次長による簡単な「かるた」と7つの事例から一つを選んでのロールプレイング（事例に沿って会社役員、組合役員、組合員など配役を決め、寸劇を通じて疑似体験をする研修方法）。



そのロールプレイング、第1班は組合を脱退したいという組合員に対する組合役員の説得。「組合費を取られる一方で賃金は上がらないし、組合にいるメリットがない」という組合員に対して、なかなか有効打が出せず、そうこうしているうちに終了。最初ということもあり、ちょっと堅い感じになってしまいました。

続く第2班は、年休届けを1ヶ月前に出したにもかかわらず数日前に会社から断られるという設定。会社担当者が組合員2名を呼び出し「アド街ック天国で放映されてさあ、『漁り火まんじゅう』の生産が急に追いつかなくなっちゃったんで、二人のうちどっちか出て

くれないかなあ」から始まり組合役員が登場し、会社側は時期変更権を主張するものの「1ヶ月前に年休を提出し、今になってそれはないでしょ。休日を取る他の職員に休日出勤を頼んでみたんですか」という組合役員の言葉に押し切られるというストーリー。なかなかのできばえでした。

第3班は、勤務態度不良の組合員に対して会社が解雇通告をし、それに対する組合の対応。組合役員の「本人も悪いところはあるが、会社の指導も十分でなかった。解雇には当たらない」という言葉に会社担当者は「直属の上司は、何回も注意してきた」と反論。そうこうしているうちに「解雇は当たり前だろう」と連合山田組織部長が会社側の立場で乱入。組合側不利と見るや今度は平石相談員が組合側に。「労働審判にかけるぞ」「かけてみる」とやり取りしているうちに、八木橋事務局長も参入。笑いに包まれながらも、ちょっと緊迫感ある場面を作りましたが、話はごちゃごちゃになり終了となりました。

研修終了後に行われた交流会では、ロールプレイングの雰囲気を引きずって盛り上がり、「同窓会のようなものがあったもいいね」という声も出ていました。